

令和 2 年

消防統計

火 災 統 計

救 急 統 計

救 助 統 計

大崎地域広域行政事務組合

消防本部

目 次

第1章 火災統計

1	大崎管内における火災概要	1
	火災件数	1
	火災種別ごとの火災件数	2
	月別の火災件数	2
2	死傷者等の発生状況	3
3	損害額・出火率	4
	損害額	4
	出火率	4
4	出火原因	5

第2章 救急統計

1	大崎管内における救急業務の実施状況	6
2	事故種別出動件数及び搬送人員状況	6
3	救急隊別出動状況	7
4	市町別出動状況	8
5	傷病程度別、年齢別搬送人員状況	9
6	月別救急出動状況	10
7	収容先別搬送人員状況	11
8	ドクターヘリ要請件数状況	11
9	救急隊員の行った救急処置状況	12
10	PA連携出動状況	13

第3章 応急手当講習会等の概要

1	講習会の開催状況	14
2	性別・年齢別受講者状況	15
3	講習会開催の推移	16
4	講習会の効果	17

第4章 救助統計

1	救助業務の概況	18
2	救助人員の傷病程度	19
3	救助事案発生場所	19

第1章 火災統計

1 大崎管内における火災概要

火災件数

令和2年における総火災件数は58件で前年より7件増加し、約6.3日に1件の割合で発生したことになります。

また、市町別の火災件数は、大崎市37件(63.7%)、色麻町3件(5.2%)、加美町11件(19%)、涌谷町3件(5.2%)、美里町4件(6.9%)となっています。(表1・表2)

過去10年間の火災件数を比較すると、2番目に少ない件数となります。(図1)

表1 市町別火災件数

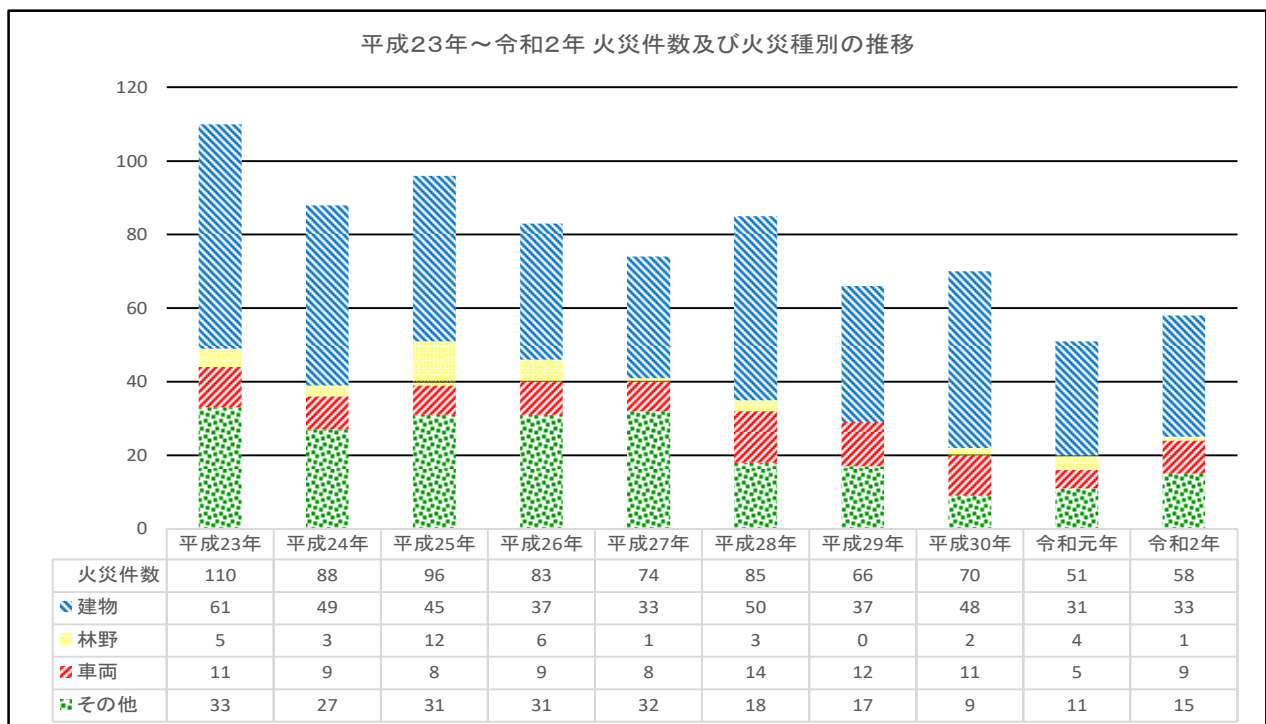
	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	合計
令和2年	37	3	11	3	4	58
令和元年	31	5	5	7	3	51
比較	6	-2	6	-4	1	7

表2 市町別火災総括表

	火災件数					焼損棟数	り災		死者	負傷者	世帯数	人口
	合計	建物	林野	車両	その他		世帯	人員				
大崎市	37	19	0	6	12	48	23	44	2	4	52,161	128,297
色麻町	3	3	0	0	0	4	3	11	2	1	2,079	6,648
加美町	11	6	1	1	3	12	6	20	0	0	8,191	22,568
涌谷町	3	2	0	1	0	4	3	5	1	2	6,005	15,548
美里町	4	3	0	1	0	4	1	7	0	1	9,238	24,213
大崎圏全体	58	33	1	9	15	72	36	87	5	8	77,674	197,274

※世帯数・人口は令和2年12月末現在(宮城県住民基本台帳より)

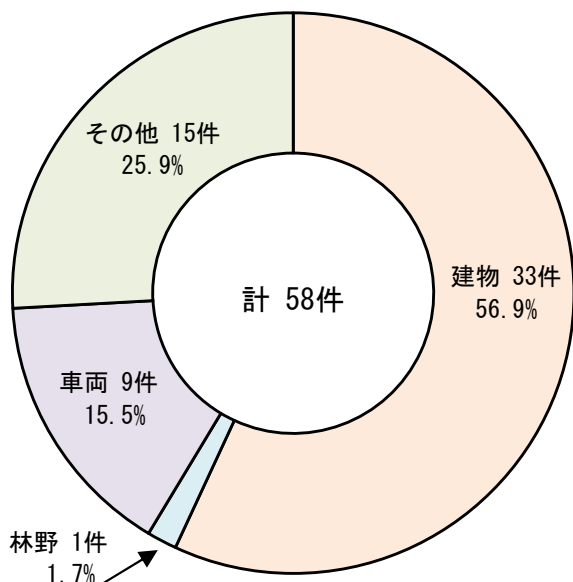
図1 過去10年の火災件数及び火災種別の推移



火災種別ごとの火災件数

火災種別ごとの火災件数は、建物火災が33件(56.9%)で前年より2件増加、林野火災が1件(1.7%)で3件減少、車両火災が9件(15.5%)で4件増加、その他火災が15件(25.9%)で4件増加となっています。(図2)

図2 火災発生状況

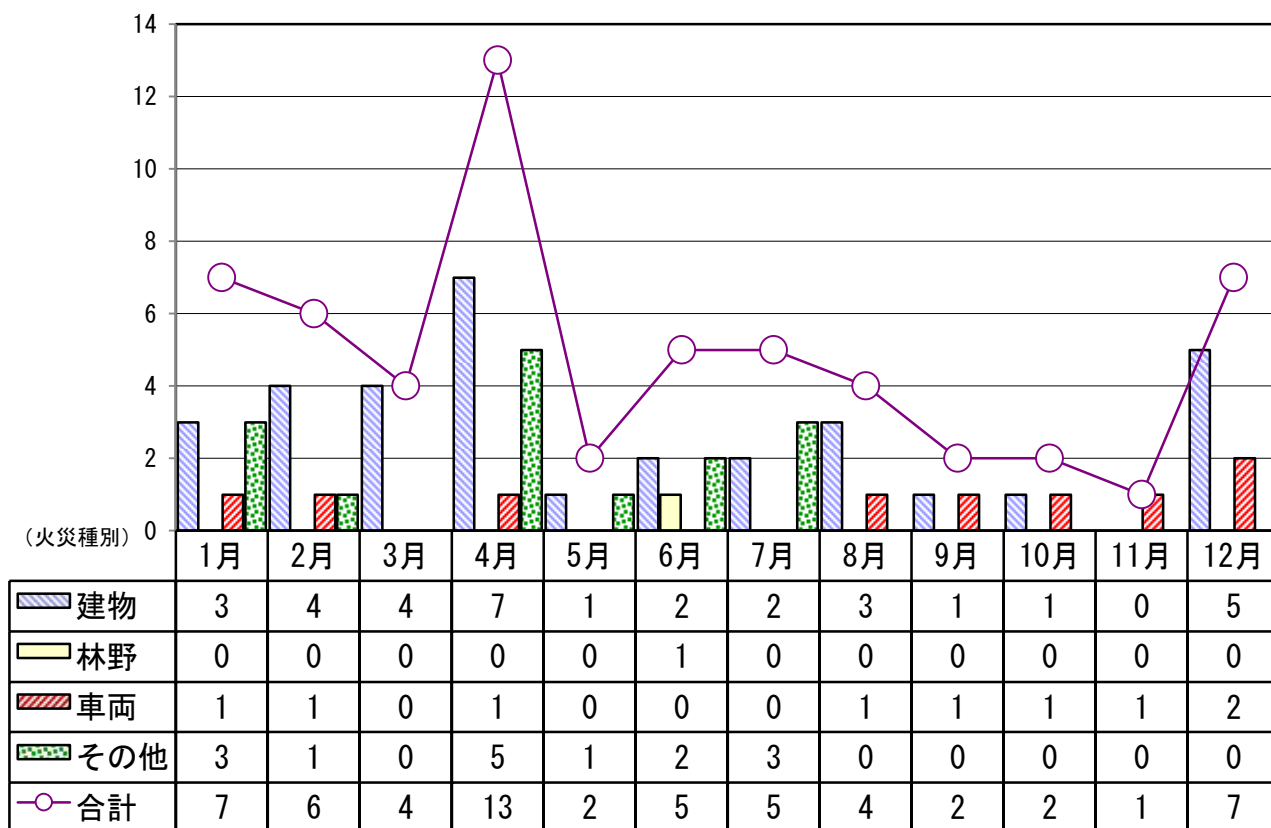


全焼	33棟
半焼	4棟
部分焼	20棟
ぼや	15棟
合計	72棟

月別の火災件数

月別の火災件数は、4月に13件の火災が発生し全体の22.4%を占め、うち建物火災が7件発生しています。(図3)

図3 月別火災発生状況

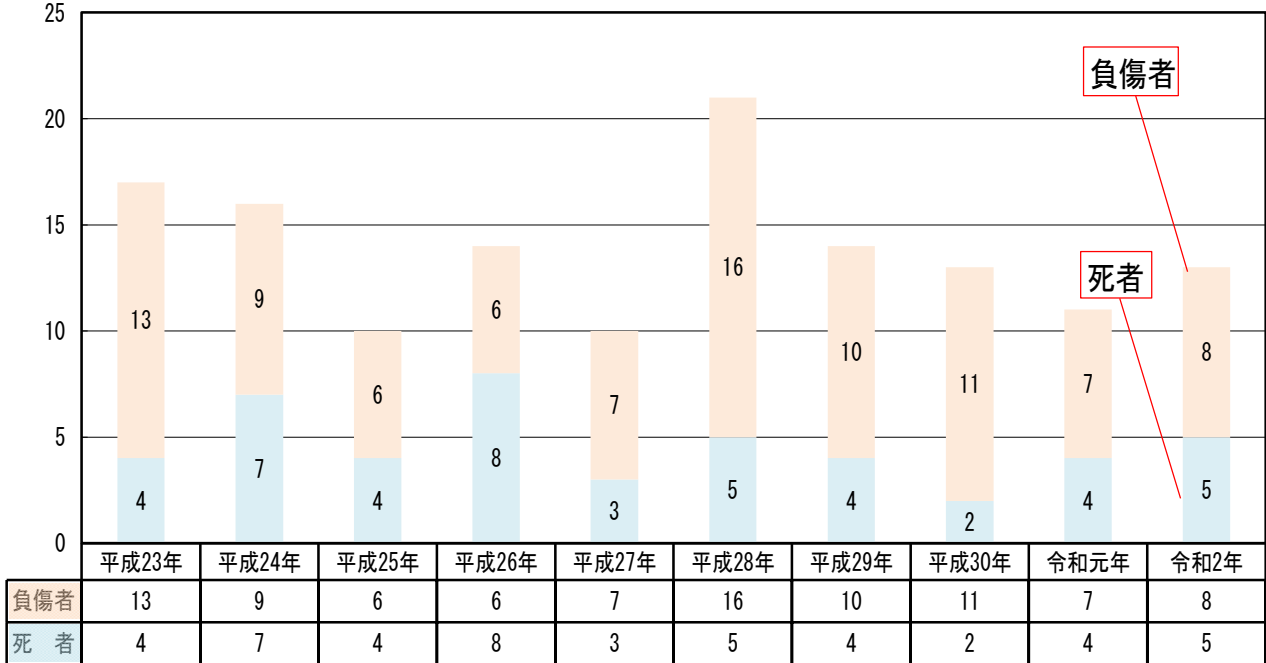


2 死傷者等の発生状況

火災による死者数は5人で、前年より1人増加しています。死者が発生した火災の種別は、5人とも建物火災となっています。

火災による負傷者数は8人で、前年より1人増加しています。負傷者が発生した火災種別は、建物火災が5人、その他火災が3人となっています。(図4)

図4 過去10年間の火災による死傷者状況



3 損害額・出火率

損害額

令和2年における火災による損害額は2億5,811万1千円で、前年と比較すると、1億2,824万4千円増加しています。

火災種別ごとの損害額は、建物火災が2億2,597万6千円、林野火災が6万4千円、車両火災が783万7千円、その他火災が2,423万4千円となっています。

火災1件当たりの損害額は445万円で、一世帯当たりの損害額は3,323円、住民一人当たりでは1,303円となっています。(表3・図5)

出火率

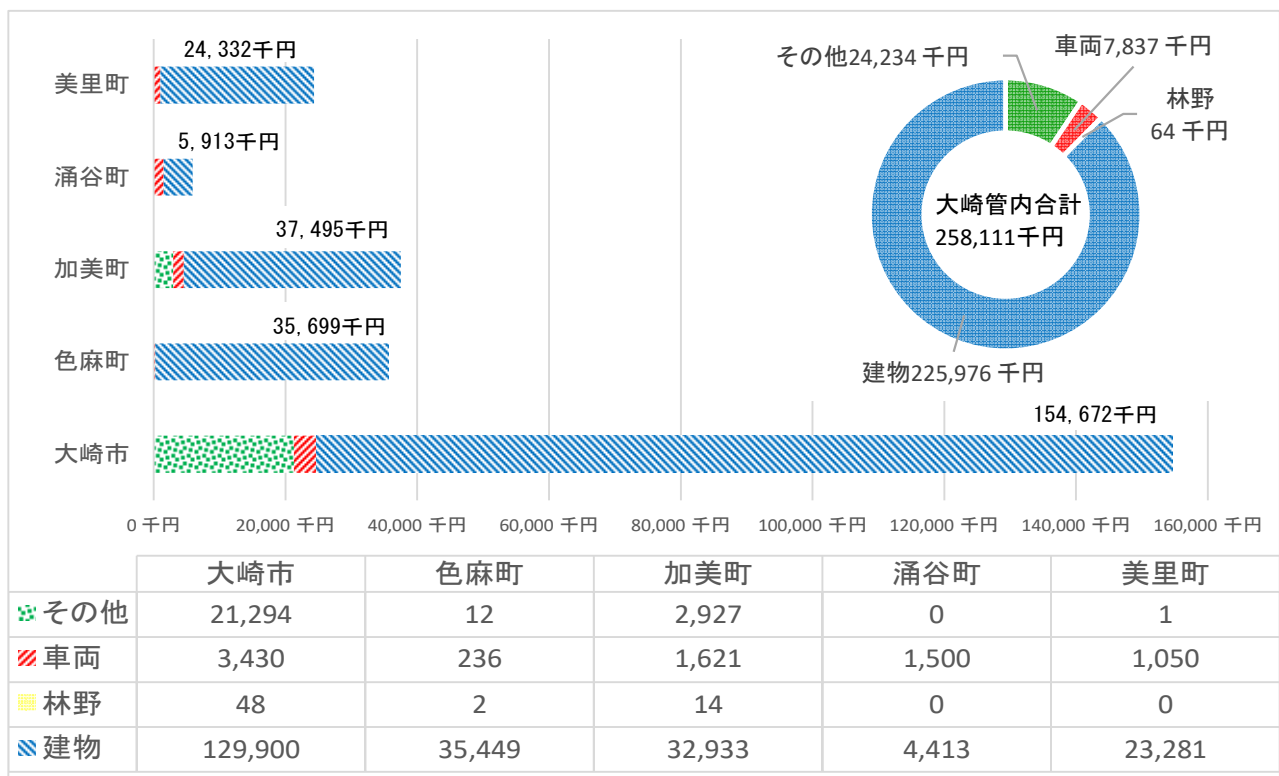
出火率をみると、大崎圏全体は2.94件/万人であり、前年と比較すると0.38件/万人増加しています。

市町別にみると、加美町が4.87件/万人と最も高く、次いで色麻町が4.51件/万人、大崎市が2.88件/万人、涌谷町が1.93件/万人、美里町が1.65件/万人となっています。(表3)

表3 市町別出火率及び損害額

	一万人 当り 出火率 (件/万人)	損 害 額				焼 損 面 積		
		総額 (千円)	1件当たり (千円)	一世帯 当たり (円)	一人 当たり (円)	建物 面積 (㎡)	1件 当たり (㎡)	林野 面積 (a)
大崎市	2.88	154,672	4,180	2,965	1,206	2,518	132.5	6
色麻町	4.51	35,699	11,900	17,171	5,370	447	149.0	0
加美町	4.87	37,495	3,409	4,578	1,661	1,357	226.2	4
涌谷町	1.93	5,913	1,971	985	380	46	23.0	0
美里町	1.65	24,332	6,083	2,634	1,005	60	20.0	0
大崎圏全体	2.94	258,111	4,450	3,323	1,308	4,428	134.2	10

図5 市町別損害状況



4 出火原因

総火災件数の58件を出火原因別にみると、「放火」8件(13.8%)、「ストーブ」5件(8.6%)、「放火の疑い」「排気管」「電灯等配線」「火入れ」各3件(5.2%)の順となっています。(表4)

表4 出火原因

原因	年別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
たばこ		13	5	4	6	3	5	6	8	8	2
こんろ		4	3	3		2	6	3	4	2	1
ストーブ		10	2	3	3	6	6	1	7	3	5
こたつ			1								
煙突・煙道		1	3	2	1	2		1	2	2	2
排気管		2	2	2	2		4	4	5	1	3
電気機器		5	5	2	1	1	1	1	3	2	
電灯等配線		2	5	1	3	7	3	4	2	1	3
配線器具		3	1	4	2		3	1	2	3	2
火遊び		1	1	2	3			2	1	1	
たき火		5	5	12	4	4	1		3	1	2
溶接・切断機		3	2	2	1	1	1				
灯火		2	1	2	1	1	1	1	2	1	2
衝突の火花			1		1	1			1		
取灰			1			2		1	1		2
火入れ		8	5	12	10	10	4	2	4	2	3
かまど							1				
風呂かまど		2	1	3	3	1					
炉			1								
焼却炉			1	2			1			3	2
ボイラー		1		1						1	
電気装置		1	2	2	1					1	1
内燃機関								1	1		
マッチ・ライター		1				2	2	3		1	
放火		2	4	4	5	6	11	6	1	3	8
放火の疑い		3	6	2	7	4	5	7	9	2	3
その他		18	19	16	15	10	10	14	9	7	13
不明		23	11	15	14	11	20	8	5	6	4
合計		110	88	96	83	74	85	66	70	51	58

第2章 救急統計

1 大崎管内における救急業務の実施状況

令和2年における救急出動件数は、8,422件（前年比1,048件減）で搬送人員が7,773人（前年比1,062人減）となっております。これは月平均で約702件、一日平均で約23件（約63分に1件）の割合で救急隊が出動し、管内の約25人に1人（約10世帯に1人）が救急隊により搬送されたこととなります。（表1・図1）※大崎管内の世帯数及び人口：77,674世帯，197,274人（令和2年12月末現在，宮城県住民基本台帳より）

2 事故種別出動件数及び搬送人員状況

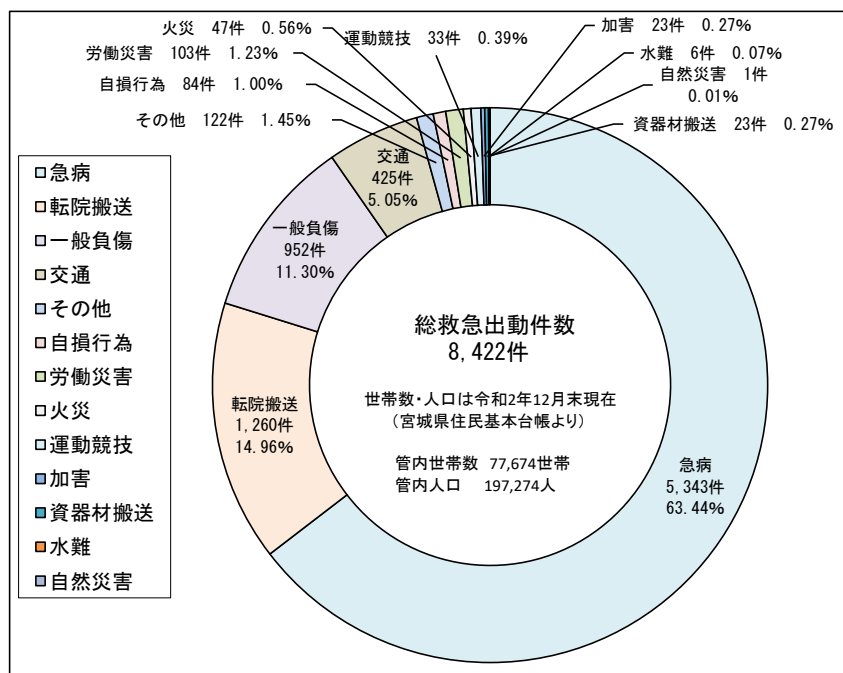
事故種別ごとの出動件数は、急病が5,343件（前年比773件減）と全出動件数の63.44%を占め、次いで転院搬送の1,260件（前年比180件減），一般負傷の952件（前年比48件減），交通の425件（前年比85件減）の順となります。

搬送人員は、急病4,968人（前年比717人減），転院搬送1,259人（前年比181人減），一般負傷884人（前年比52人減），交通452人（前年比96人減）の順となります。（表1・図1）

表1 令和2年救急出動状況

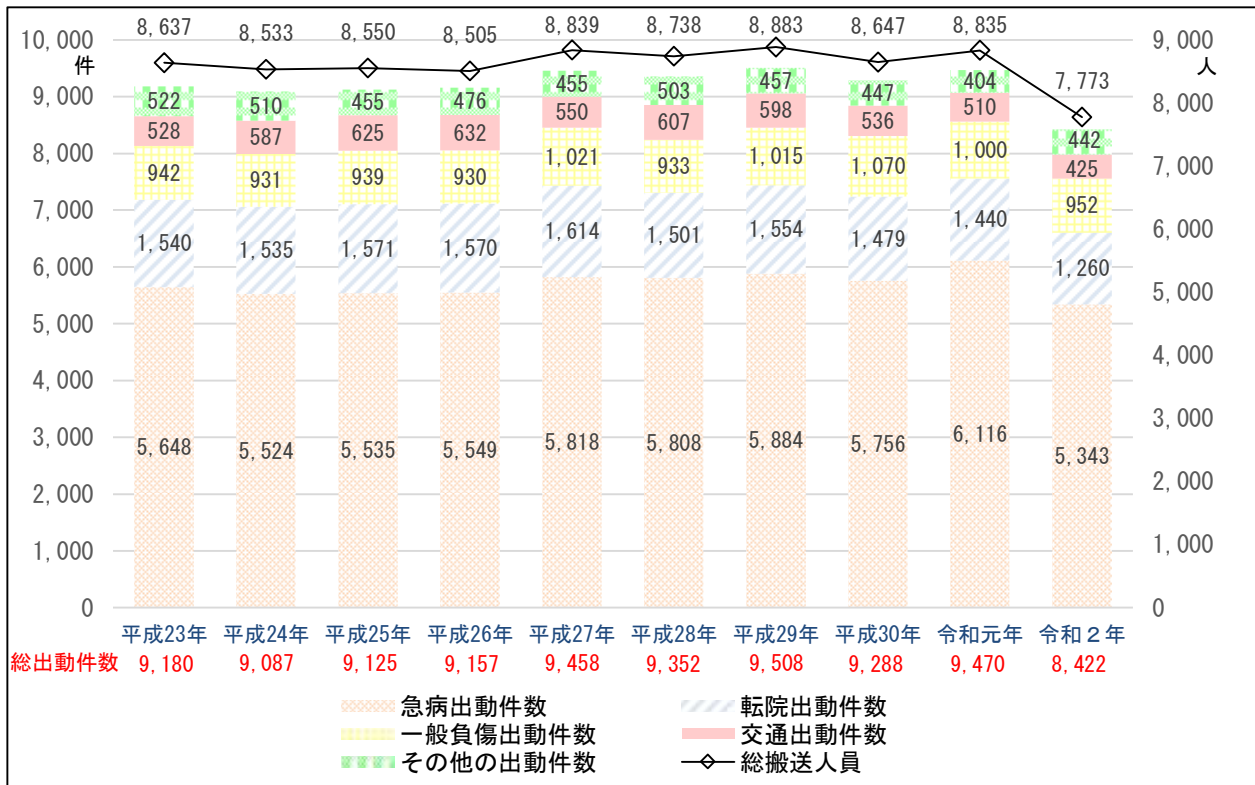
区分	年別比較	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
出動件数	令和2年	8,422	47	1	6	425	103	33	952	23	84	5,343	1,260		23	122
	令和元年	9,470	42	4	4	510	97	53	1,000	22	68	6,116	1,440		21	93
	前年比	-1,048	5	-3	2	-85	6	-20	-48	1	16	-773	-180	0	2	29
不搬送件数	令和2年	726	42		3	41	3		70	6	34	381	1		23	122
	令和元年	734	35		4	48		1	67	6	23	435	2		21	92
	前年比	-8	7	0	-1	-7	3	-1	3	0	11	-54	-1	0	2	30
搬送人員	令和2年	7,773	5	1	3	452	101	33	884	17	50	4,968	1,259			
	令和元年	8,835	7	4		548	97	54	936	18	45	5,685	1,440			1
	前年比	-1,062	-2	-3	3	-96	4	-21	-52	-1	5	-717	-181			-1

図1 救急出動状況



過去10年間の救急出動件数は、平成23年から9年連続9,000件を超えていますが、令和2年は、過去10年間で最少出動件数となっています。(図2)

図2 過去10年間の救急出動件数の推移



3 救急隊別出動状況

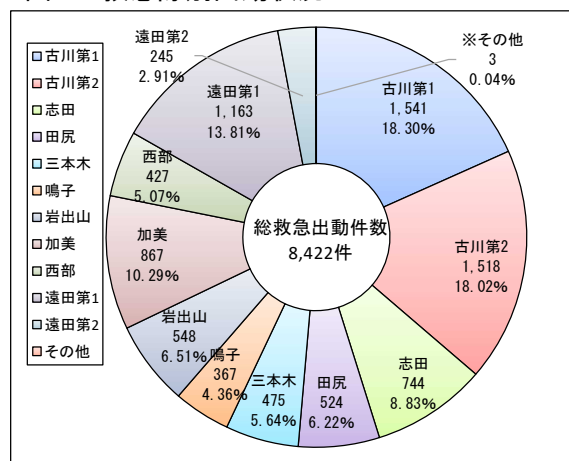
救急隊別の出動状況を前年比で見ると、全ての隊で減少し、合計で1,048件減少となります。(表2・図3)

表2 救急隊別出動状況

	古川第1	古川第2	志田	田尻	三本木	鳴子	岩出山	加美	西部	遠田第1	遠田第2	※その他	合計
令和2年	1,541	1,518	744	524	475	367	548	867	427	1,163	245	3	8,422
令和元年	1,751	1,690	882	621	535	470	587	983	484	1,166	296	5	9,470
比較	-210	-172	-138	-97	-60	-103	-39	-116	-57	-3	-51	-2	-1,048

図3 救急隊別出動状況

※その他は、非常用救急車等。

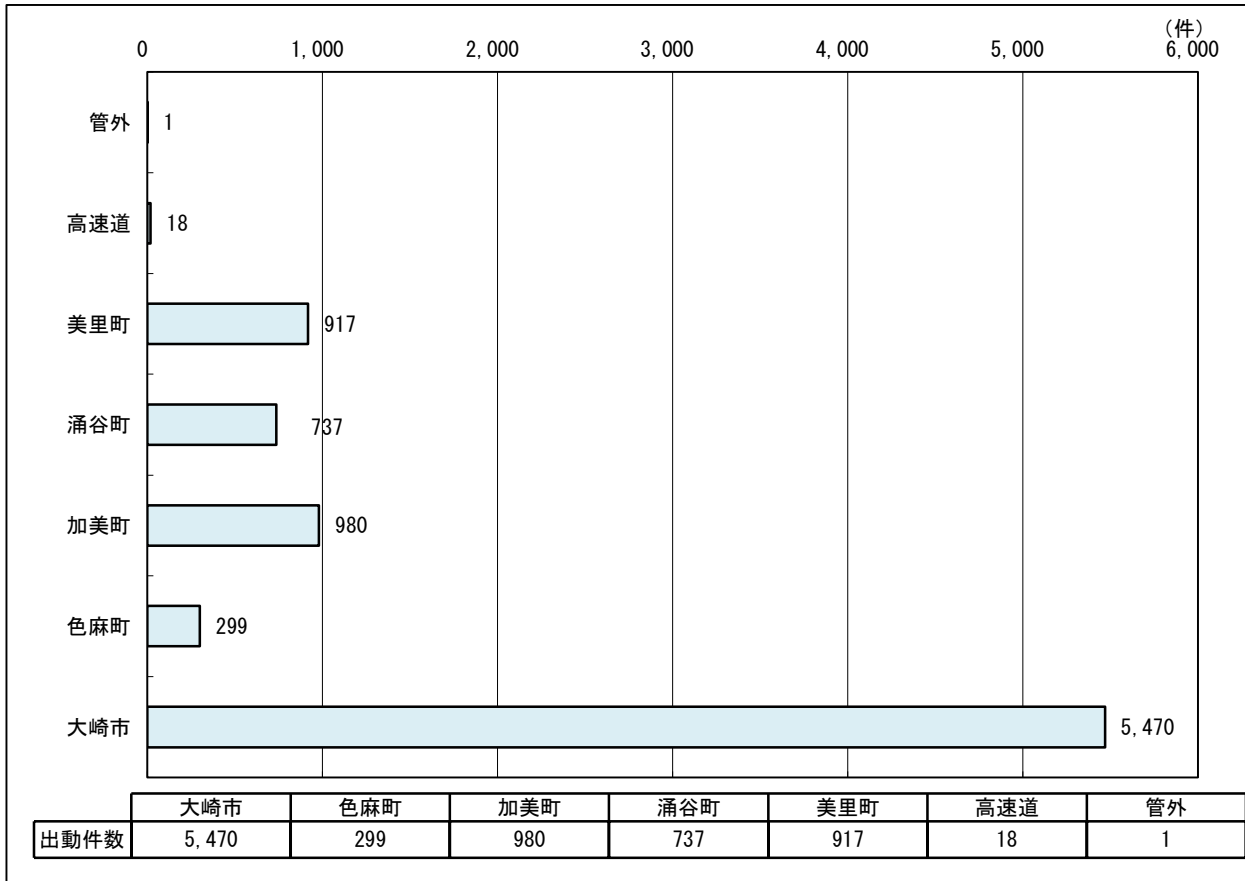


4 市町別出動状況

令和2年における総救急出動件数 8,422 件のうち、大崎管内への総出動件数は、8,421 件となります。市・町別にみると、大崎市 5,470 件、色麻町 299 件、加美町 980 件、涌谷町 737 件、美里町 917 件となります。

また、高速道（東北自動車道）に 18 件、管外への出動は 1 件です。（図 4）

図 4 市町別救急出動件数



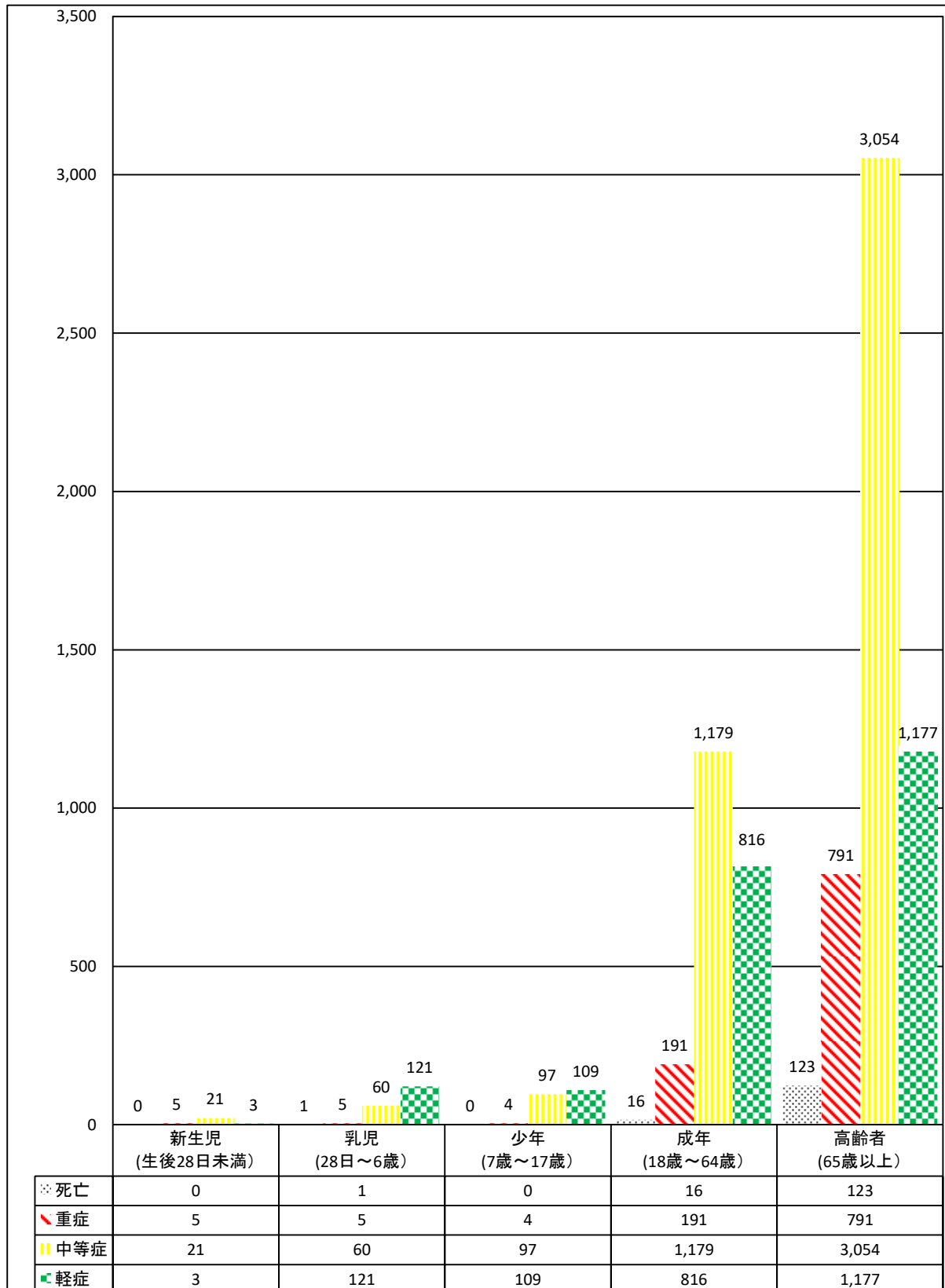
5 傷病程度別、年齢別搬送人員状況

搬送した7,773人の傷病程度は、死亡140人、重症996人、中等症4,411人、軽症2,226人と診断されています。

死亡、重症、中等症の傷病者の割合は全体の約71.4%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は28.6%となります。

また、年齢別では高齢者（65歳以上）が全体の約66.2%を占めています。（図5）

図5 傷病程度別・年齢別搬送人員状況



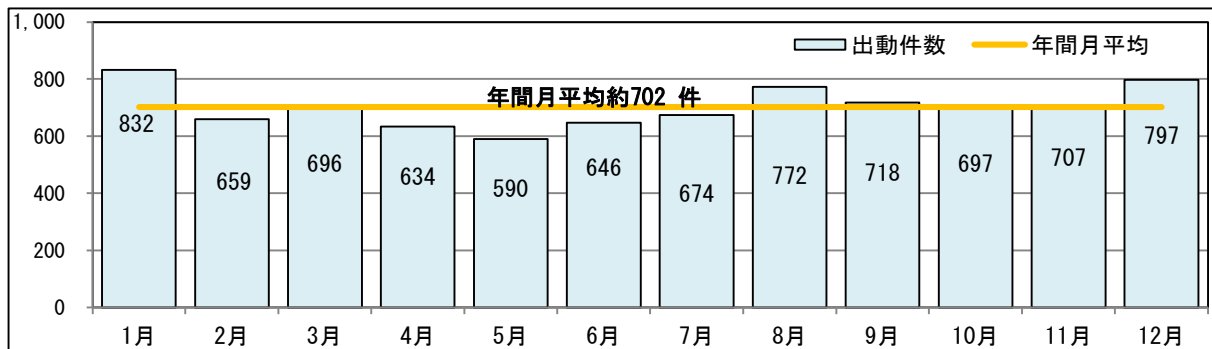
6 月別救急出動状況

救急隊の1か月の平均出動件数は約702件で、最も多い月は1月で832件、次いで12月の797件となっています。(表3・図6)

表3 令和2年月別及び事故種別毎出動・搬送等状況

月別	区分	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
1月	出動件数	832	6	0	0	33	5	4	74	1	7	570	119	0	2	11
	搬送件数	761	0	0	0	31	5	4	63	1	4	534	119	0	0	0
	搬送人員	772	0	0	0	40	5	4	63	1	4	536	119	0	0	0
2月	出動件数	659	5	0	0	27	9	1	73	1	6	456	72	0	3	6
	搬送件数	607	1	0	0	26	9	1	67	1	3	427	72	0	0	0
	搬送人員	609	1	0	0	28	9	1	67	1	3	427	72	0	0	0
3月	出動件数	696	5	0	0	19	6	2	75	4	12	429	131	0	6	7
	搬送件数	625	1	0	0	17	5	2	72	2	7	389	130	0	0	0
	搬送人員	629	1	0	0	20	6	2	72	2	7	389	130	0	0	0
4月	出動件数	634	9	0	0	25	3	0	81	2	5	390	108	0	1	10
	搬送件数	576	1	0	0	23	3	0	74	1	3	363	108	0	0	0
	搬送人員	580	1	0	0	27	3	0	74	1	3	363	108	0	0	0
5月	出動件数	590	2	0	1	34	8	0	77	2	6	370	84	0	1	5
	搬送件数	529	0	0	1	29	8	0	70	2	1	334	84	0	0	0
	搬送人員	537	0	0	1	35	8	0	70	2	1	336	84	0	0	0
6月	出動件数	646	3	0	1	42	9	2	72	1	5	393	108	0	0	10
	搬送件数	602	2	0	1	39	8	2	67	1	2	372	108	0	0	0
	搬送人員	607	2	0	1	43	8	2	67	1	2	373	108	0	0	0
7月	出動件数	674	2	0	3	33	7	1	80	2	10	426	89	0	4	17
	搬送件数	621	0	0	1	30	7	1	78	2	8	405	89	0	0	0
	搬送人員	622	0	0	1	31	7	1	78	2	8	405	89	0	0	0
8月	出動件数	772	4	0	0	45	22	11	85	4	8	482	102	0	1	8
	搬送件数	716	0	0	0	44	22	11	77	3	5	452	102	0	0	0
	搬送人員	724	0	0	0	51	22	11	78	3	5	452	102	0	0	0
9月	出動件数	718	2	1	0	31	12	5	71	2	6	472	105	0	1	10
	搬送件数	665	0	1	0	30	12	5	67	1	4	440	105	0	0	0
	搬送人員	668	0	1	0	33	12	5	67	1	4	440	105	0	0	0
10月	出動件数	697	2	0	1	43	9	3	80	1	8	419	116	0	2	13
	搬送件数	630	0	0	0	35	8	3	74	0	7	387	116	0	0	0
	搬送人員	641	0	0	0	46	8	3	74	0	7	387	116	0	0	0
11月	出動件数	707	1	0	0	46	8	3	82	1	7	438	109	0	1	11
	搬送件数	642	0	0	0	37	8	3	76	1	4	404	109	0	0	0
	搬送人員	648	0	0	0	43	8	3	76	1	4	404	109	0	0	0
12月	出動件数	797	6	0	0	47	5	1	102	2	4	498	117	0	1	14
	搬送件数	722	0	0	0	43	5	1	97	2	2	455	117	0	0	0
	搬送人員	736	0	0	0	55	5	1	98	2	2	456	117	0	0	0
合計	出動件数	8,422	47	1	6	425	103	33	952	23	84	5,343	1,260	0	23	122
	搬送件数	7,696	5	1	3	384	100	33	882	17	50	4,962	1,259	0	0	0
	搬送人員	7,773	5	1	3	452	101	33	884	17	50	4,968	1,259	0	0	0

図6 令和2年月別出動件数



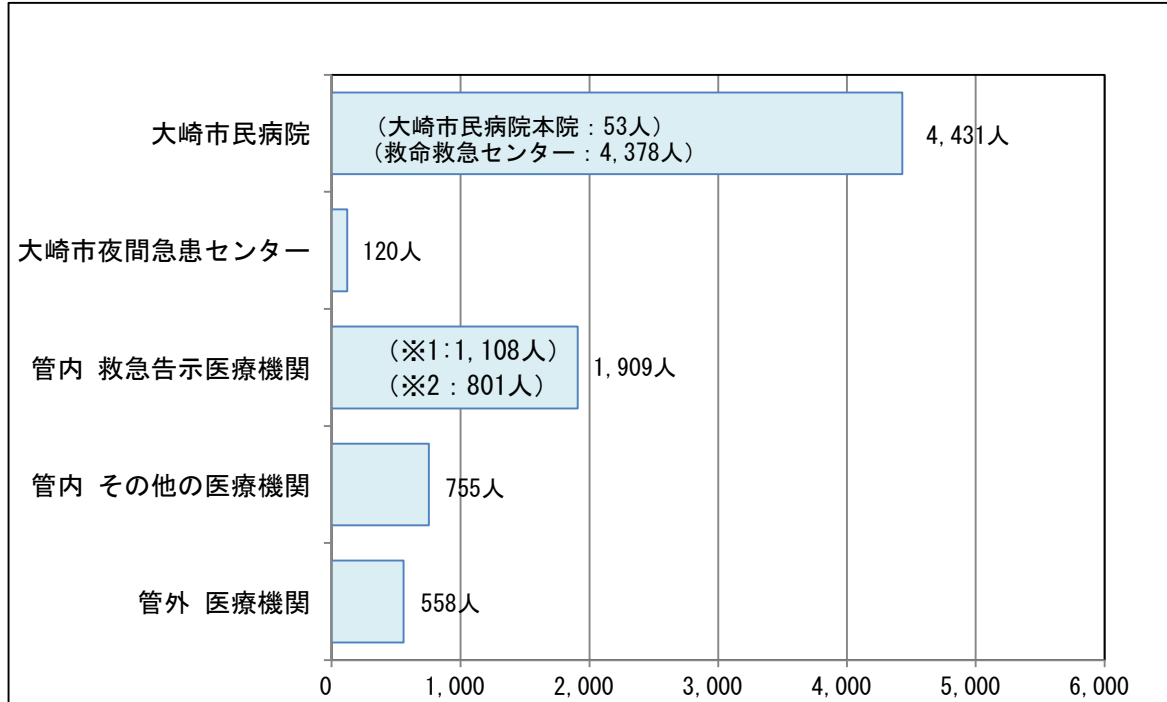
7 収容先別搬送人員状況

令和2年における収容先別搬送人員状況は、大崎市民病院（救命救急センター含む）が最も多い4,431人で、その割合は全搬送人員の57.0%となっています。

また、大崎市夜間急患センターへ搬送された人員は120人です。

大崎市民病院を除く大崎管内の救急告示医療機関に搬送された人員は1,909人で、そのうち公立の救急告示医療機関に搬送された人員は1,108人です。（図7）

図7 収容先別搬送人員状況



※1 公立救急告示医療機関：大崎市民病院鳴子温泉分院，大崎市民病院岩出山分院，大崎市民病院鹿島台分院，

涌谷町国民健康保険病院，美里町立南郷病院，公立加美病院

※2 その他の救急告示医療機関：古川民主病院，古川星陵病院，徳永整形外科病院，みやぎ北部循環器科，東泉堂病院

※3 救急告示医療機関：「救急病院等を定める省令」（昭和39年厚生省令第8号）第1条による医療機関，令和2年12月1日現在

8 ドクターヘリ要請件数状況

令和2年における大崎消防本部のドクターヘリ要請件数は28件で、救急隊と連携し現場活動を実施しているのは18件となり、10件は救急隊の現場判断等によりキャンセルとなっています。

（表4）

表4 ドクターヘリ要請件数

出動先	大崎市							加美町			色麻町	美里町		涌谷町	合計
	古川	鹿島台	松山	田尻	三本木	鳴子	岩出山	中新田	小野田	宮崎		小牛田	南郷		
現場活動	3件	2件	0件	0件	0件	8件	1件	0件	2件	0件	1件	0件	0件	3件	20件
キャンセル	0件	2件	0件	1件	0件	2件	0件	0件	0件	0件	1件	0件	0件	2件	8件
件	19件							2件			2件	0件		5件	28件

9 救急隊員の行った救急処置状況

令和2年の搬送人員7,773人のうち、救急隊員が救急処置を行った傷病者は7,773人（搬送人員の100%）であり、救急処置件数は37,834件となっています。（表5）

表5 救急隊員の行った救急処置件数

種別 事故	傷病程度	応急処置 対象人員	止血	固定	人工呼吸	心マッサージ	心臓 自動	心臓 蘇生	心臓 自動	酸素吸入	気道確保				保温	被覆	在宅療法継続			バイタル による血圧の 保持	除細動	静脈確保 (CPA前)	静脈確保 (CPA後)	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖投与	血圧測定	聴診器による 心音・呼吸音 の聴取	血中酸素飽和 度の測定	心電図		計			
											経鼻 エアウェイ ※1	喉頭鏡・ 鉗子等 ※2	ラリ ンゲアル マスク等 ※3	気管 挿管 ※4			※A	※B	※C											伝送	その他 の処置				
急病	死亡	130	0	0	0	0	0	130	89	130	130	2	2	52	1	84	0	1	0	1	0	0	9	0	38	15	0	0	10	107	15	133	3	106	908
	重症	619	1	6	11	0	0	95	61	301	169	4	1	48	0	252	4	13	1	1	11	0	17	19	48	29	29	2	544	324	551	629	69	601	3,645
	中等症	2,693	20	48	4	0	0	2	2	423	56	3	0	1	0	938	11	47	1	10	36	0	0	30	2	2	61	14	2,654	1,120	2,689	2,474	176	2,671	13,266
	軽症	1,526	40	22	0	0	0	0	0	41	3	0	0	0	0	445	11	6	0	1	5	0	0	4	0	0	12	4	1,471	461	1,522	1,163	3	1,517	6,722
	計	4,968	61	76	15	0	0	227	152	895	358	9	3	101	1	1,719	26	67	2	13	52	0	26	53	88	46	102	20	4,679	2,012	4,777	4,399	251	4,895	24,541
交通事故	死亡	2	0	2	0	0	0	2	0	2	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2	1	2	0	2	19
	重症	23	8	21	1	0	0	4	0	13	9	0	0	0	0	8	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	19	18	19	20	0	23	170
	中等症	214	15	172	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	59	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	214	123	213	126	0	208	1,177
	軽症	213	14	134	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	46	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	85	209	72	0	207	992
	計	452	37	329	1	0	0	6	0	37	11	0	0	1	0	114	53	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	434	228	442	220	0	440	2,358
一般負傷	死亡	2	0	1	0	0	0	2	1	2	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2	1	2	0	2	19	
	重症	60	3	22	2	0	0	7	5	14	12	0	2	3	0	19	3	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	53	22	53	40	1	57	312	
	中等症	514	65	161	0	0	0	0	0	20	1	0	0	0	0	166	93	3	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	505	112	513	278	0	509	2,427
	軽症	308	69	53	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	65	89	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	273	57	303	111	0	304	1,332
	計	884	137	237	2	0	0	9	6	41	16	0	2	4	0	252	185	5	0	0	5	0	0	2	3	3	0	0	832	193	870	431	1	872	4,090
上記以外	死亡	6	0	1	0	0	0	6	6	6	6	0	0	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	6	0	6	0	5	44	
	重症	294	3	18	4	0	0	8	7	118	29	4	0	5	0	127	4	1	0	0	1	0	1	3	3	2	3	0	277	65	286	234	13	284	1,470
	中等症	990	12	67	0	0	0	0	0	204	3	0	0	0	0	364	20	4	0	2	2	0	0	0	0	0	1	1	963	209	986	742	42	971	4,547
	軽症	179	16	8	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	54	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	176	26	178	116	8	173	784
	計	1,469	31	94	4	0	0	14	13	343	38	4	0	7	0	550	46	5	0	2	3	0	1	3	6	0	4	1	1,416	306	1,450	1,098	63	1,433	6,845
合計	死亡	140	0	4	0	0	0	140	96	140	140	2	2	56	1	92	0	1	0	1	0	0	9	0	43	17	0	0	12	117	17	143	3	115	990
	重症	996	15	67	18	0	0	114	73	446	219	8	3	56	0	406	15	14	1	1	12	0	18	26	53	33	32	2	893	429	909	923	83	965	5,597
	中等症	4,411	112	448	4	0	0	2	2	663	60	3	0	1	0	1,527	154	54	1	12	41	0	0	31	2	2	63	15	4,336	1,564	4,401	3,620	218	4,359	21,417
	軽症	2,226	139	217	0	0	0	0	0	67	4	0	0	0	0	610	141	8	0	1	7	0	0	4	0	0	12	4	2,120	629	2,212	1,462	11	2,201	9,830
	計	7,773	266	736	22	0	0	256	171	1,316	423	13	5	113	1	2,635	310	77	2	15	60	0	27	61	98	52	107	21	7,361	2,739	7,539	6,148	315	7,640	37,834

・気道確保

- ※1 経鼻エアウェイを使用時の気道確保
- ※2 喉頭鏡・マギール鉗子等による異物除去
- ※3 救急救命処置のうち、ラリゲアルマスク等を使用
- ※4 気管挿管：気管チューブによる気道確保

・在宅療法

- ※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの
- ※B 気道切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外瘻処置が施されているもの
- ※C ※A、※B以外の処置が施されているもの
- ・計欄については、止血から心電図までの集計である

10 PA連携出動状況

PA連携とは、消防ポンプ自動車（Pumper）が、救急要請内容により出動し、救急車（Ambulance）の活動を支援する連携活動のことで、双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。

当消防本部では、平成18年2月1日から心肺機能停止傷病者等に、いち早く応急処置を行うため、直近のポンプ車が救急車より先に到着すると判断した場合、ポンプ車隊を出動させ、救急活動を支援する連携活動を行っています。（図8～10）

令和2年におけるPA連携出動件数は32件で、前年比7件の減少となります。また、事故種別ごとの出動件数は、急病が25件と最も多く全出動件数の78.1%となっています。

図8 PA連携署所別ポンプ車出動状況

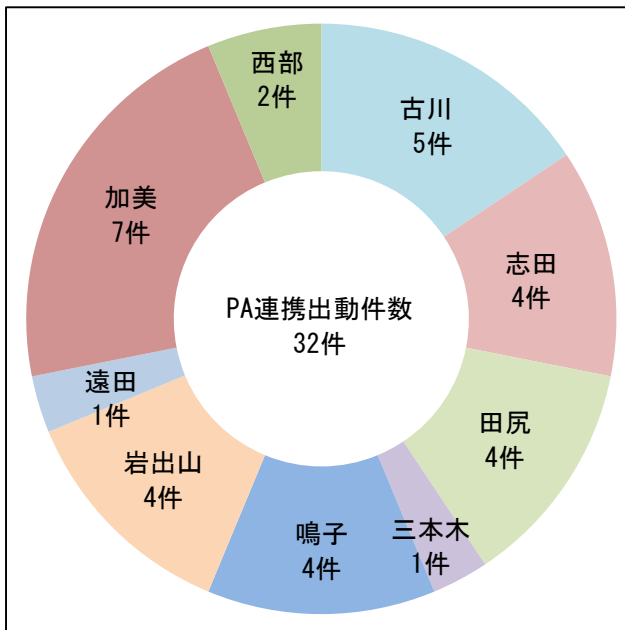


図9 PA連携事故種別毎出動状況

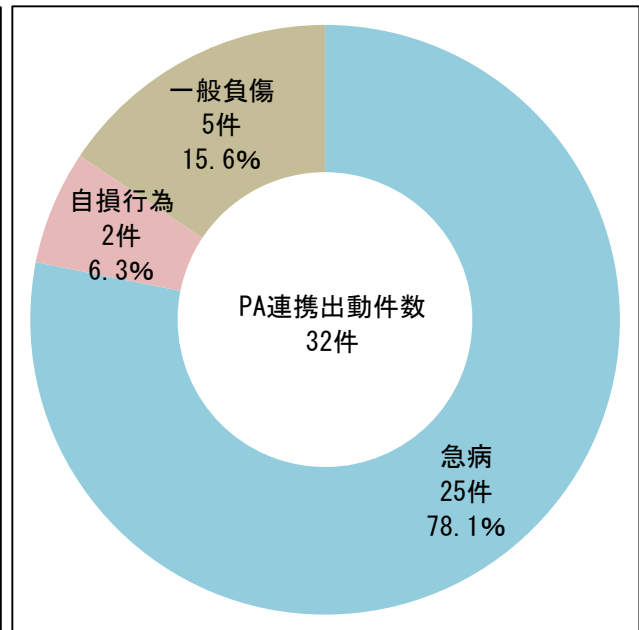
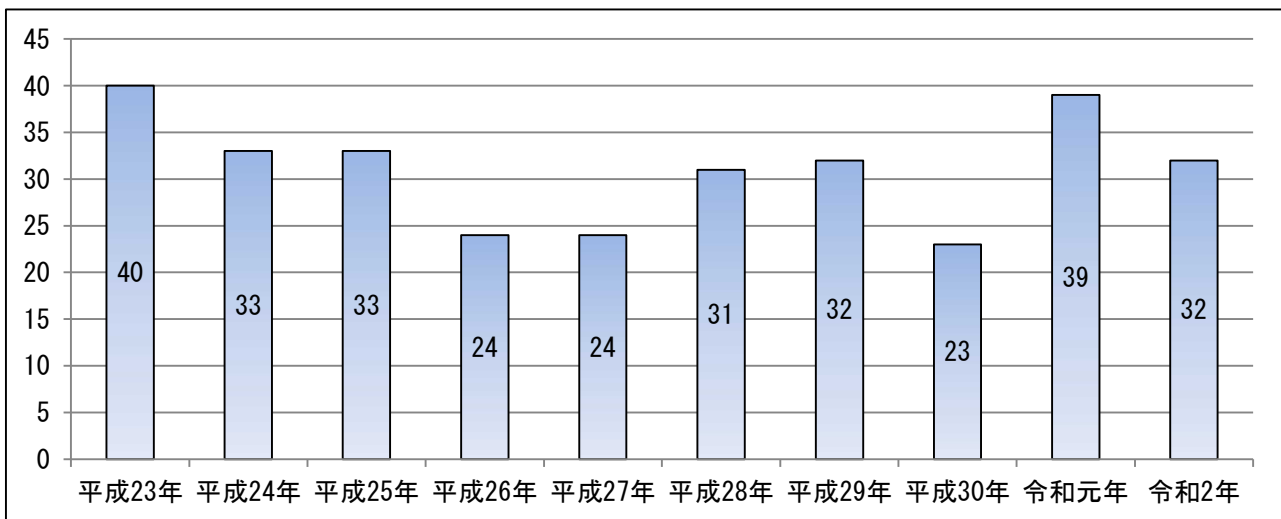


図10 過去10年間のPA連携出動件数



第3章 応急手当講習会等の概要

1 講習会の開催状況

令和2年における応急手当講習会等実施状況は、新型コロナウイルス感染症の感染を避けた新しい講習スタイルにより、感染防止に留意しながらの講習となりましたが、地域住民、学校、事業所等を対象として、普通救命講習会103回(1,340人)、上級救命講習会1回(17人)、救命入門コース22回(357人)、応急手当講習69回(1,224人)、合計195回を開催することができ、2,938人が受講しております。(表1)

また、新しい講習スタイルとして、上級救命講習及び普通救命講習では、応急手当の重要性や心肺蘇生法等の知識を、インターネット上で学習できるWEB講習(e-ラーニング)を導入し、事前に学習していただくことで、当日の座学講習を1時間短縮できる講習も開催できるようになっています。

なお、令和2年4月以降においては、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、長時間となる応急手当普及員講習(3日間)は中止しております。

表1 講習会別受講人員

種 別	開催回数	受講人員	内 容
普通救命講習会	103回	1,340人	心肺蘇生法(成人)・大出血時の止血等の講習 (講習時間3時間)
(WEB講習)	(10回)	(168人)	(講習時間2時間)
上級救命講習会	1回	17人	心肺蘇生法(成人・小児・乳児)・大出血時の止血・傷病者管理・外傷手当・搬送法等の講習 (講習時間8時間)
普及員講習会			事業所・地域団体等の従業員に対して、普通救命講習を指導できるための講習 (講習時間24時間)
救命入門コース	22回	357人	対象者を小学生中高学年以上(概ね10歳以上)とし、カリキュラムは胸骨圧迫とAEDの使用法
応急手当講習会	69回	1,224人	病気・ケガ・事故等の時、医師の治療を受けるまでの簡単な応急手当の講習
合 計	195回	2,938人	

2 性別・年齢別受講者状況

受講者の年齢構成は、10歳代が最も多く、次いで40歳代、30歳代の順となっています。

性別構成は、普通救命講習会は男性が多く、救命入門コースでは女性が多く受講しています。

(表2)

男女共に中高生の普通救命講習会の参加者が多い結果となっています。

表2 講習会別・性別・年齢別受講人員

種別	年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	合計
	性別									
普通救命講習会	男	296	76	111	154	90	50	20	0	797
	女	253	52	70	57	46	51	14	0	543
	合計	549	128	181	211	136	101	34	0	1,340
上級救命講習会	男	0	2	4	1	1	0	0	0	8
	女	1	0	2	5	1	0	0	0	9
	合計	1	2	6	6	2	0	0	0	17
普及員講習会	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救命入門コース	男	121	3	3	4	4	15	4	0	154
	女	98	14	16	27	17	26	5	0	203
	合計	219	17	19	31	21	41	9	0	357
総合計		769	147	206	248	159	142	43	0	1,714

3 講習会開催の推移

平成9年から開催してきた各種救命講習会の総受講者数は、令和2年までの24年間で75,835人となっています。(表3)

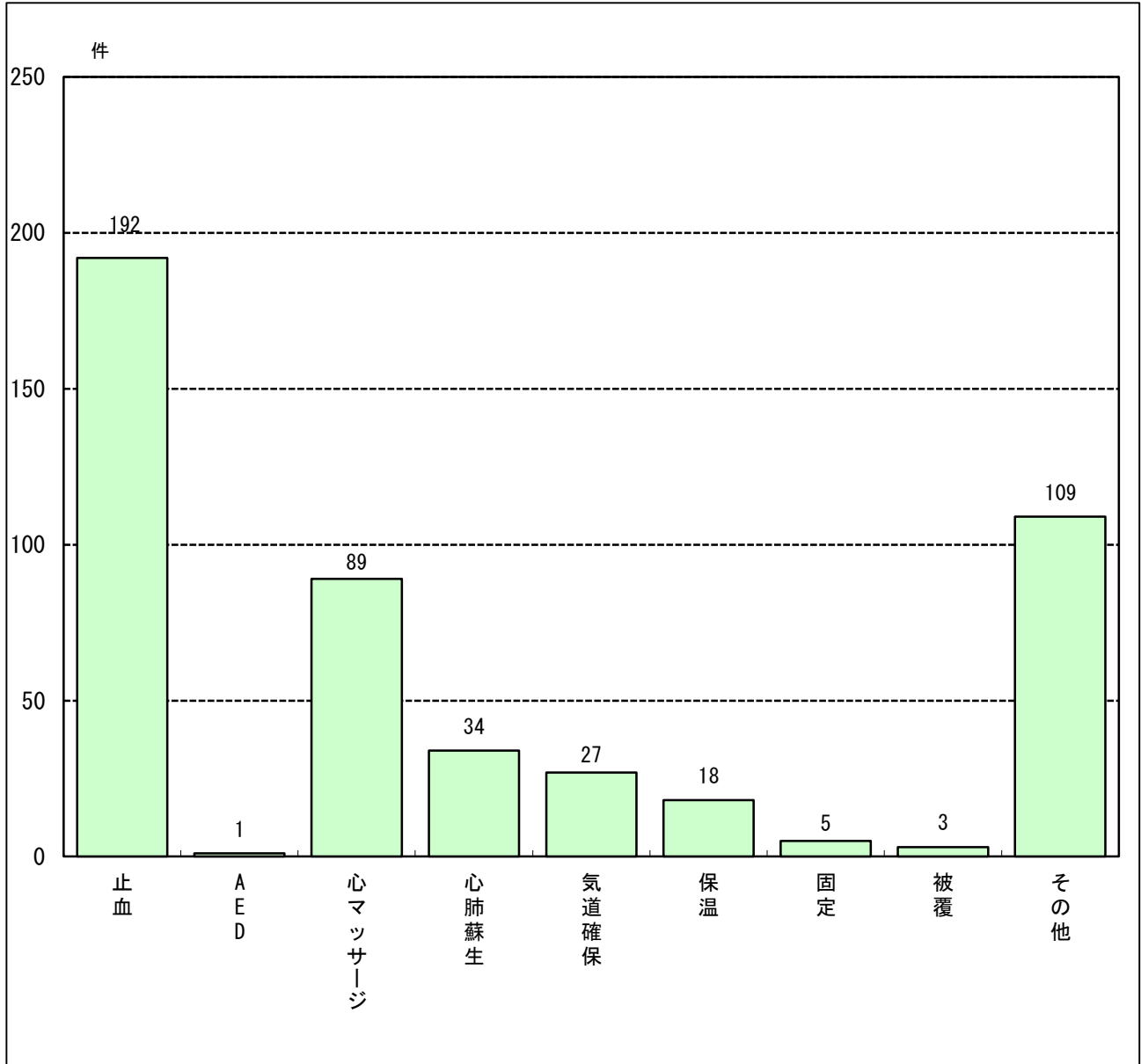
表3 講習会別開催回数・受講人員(平成9年～令和2年)

種別	年別	回数	性別		合計
			男性	女性	
普通救命講習会	平成9年～平成20年	1,451	15,383	16,983	32,366
	平成21年	176	1,720	1,785	3,505
	平成22年	165	1,728	1,605	3,333
	平成23年	133	1,257	1,026	2,283
	平成24年	152	1,455	1,508	2,963
	平成25年	194	2,034	1,965	3,999
	平成26年	172	1,753	1,772	3,525
	平成27年	173	1,556	1,664	3,220
	平成28年	146	1,380	1,270	2,650
	平成29年	185	1,978	1,632	3,610
	平成30年	150	1,445	1,506	2,951
	令和元年	149	1,592	1,359	2,951
令和2年	103	797	543	1,340	
	小計	3,349	34,078	34,618	68,696
上級救命講習会	平成11年～平成20年	55	576	1,209	1,785
	平成21年	8	87	185	272
	平成22年	7	68	132	200
	平成23年	8	97	82	179
	平成24年	7	54	123	177
	平成25年	5	77	64	141
	平成26年	6	47	100	147
	平成27年	7	56	96	152
	平成28年	8	88	113	201
	平成29年	6	76	92	168
	平成30年	7	47	94	141
	令和元年	5	28	80	108
令和2年	1	8	9	17	
	小計	130	1,309	2,379	3,688
普及員講習会	平成12年～平成20年	11	120	188	308
	平成21年	1	9	8	17
	平成22年	2	7	16	23
	平成23年	1	3	3	6
	平成24年	3	8	10	18
	平成25年	1	3	3	6
	平成26年	1	3	6	9
	平成27年	2	17	2	19
	平成28年	1	5	2	7
	平成29年	1	6	2	8
	平成30年	2	2	11	13
	令和元年	1	5	4	9
令和2年	0	0	0	0	
	小計	27	188	255	443
救命入門コース	平成24年	1	64	71	135
	平成25年	3	52	66	118
	平成26年	8	120	143	263
	平成27年	6	125	113	238
	平成28年	9	147	170	317
	平成29年	11	206	177	383
	平成30年	9	125	118	243
	令和元年	40	452	502	954
	令和2年	22	154	203	357
		小計	109	1,445	1,563
合計		3,615	37,020	38,815	75,835

4 講習会の効果

これまで実施してきた応急手当講習会等の効果として、令和2年における救急出動のうち、救急隊が傷病者のもとへ到着するまでに家族や友人、さらには傷病者の近くにいた住民等による応急手当が478件実施されています。(図1)

図1 住民等の行った応急処置件数



また、救急隊が搬送した259人の心肺機能停止傷病者に対して、住民等により心肺蘇生又は心マッサージが実施された傷病者は123人(47.5%)で、そのうち救急隊が傷病者を医師に引き継いだ時点で8人(6.5%)の心拍が再開しています。

第4章 救助統計

1 救助業務の概況

令和2年における救助出動件数は51件で前年と比べ8件の増加、救助人員は41人で前年に比べ9人の増加となっています。これは、約7日に1件の割合で出動したことになります。地区別の出動件数は、大崎市34件、色麻町1件、加美町6件、涌谷町4件、美里町5件、高速道（管内）1件となっています。（表1・表2）

また、事故種別ごとでは、交通事故が24件と出動件数全体の約47.0%を占め最も多く、続いてその他が11件と出動件数全体の約21.6%となっています。（図1-1・図1-2）

過去10年間の救助出動件数を比較すると、平成27年をピークに減少傾向でしたが、10年間で最も少ない件数だった前年から増加となっています。（図2）

表1 地区別救助出動件数前年比較（単位：件）

地区 年	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	管外	高速道 (管内)	高速道 (管外)	合計
令和2年	34	1	6	4	5	0	1	0	51
令和元年	28	1	3	3	8	0	0	0	43
比較	6	0	3	1	-3	0	1	0	8

表2 地区別救助人員数前年比較（単位：人）

地区 年	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	管外	高速道 (管内)	高速道 (管外)	合計
令和2年	24	1	7	5	4	0	0	0	41
令和元年	21	1	3	2	5	0	0	0	32
比較	3	0	4	3	-1	0	0	0	9

図1-1 救助出動件数

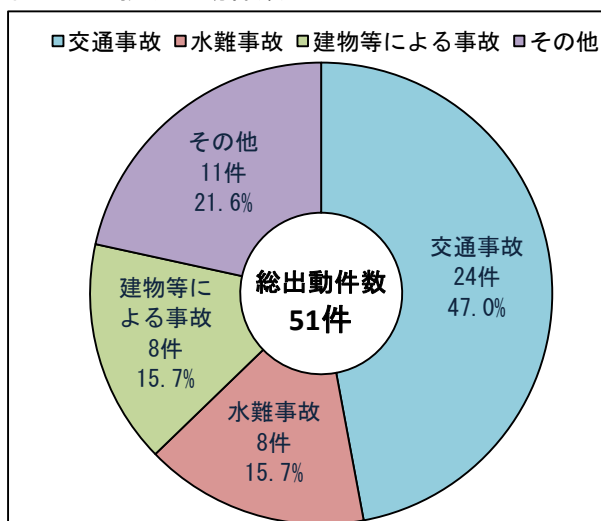


図1-2 救助人員数

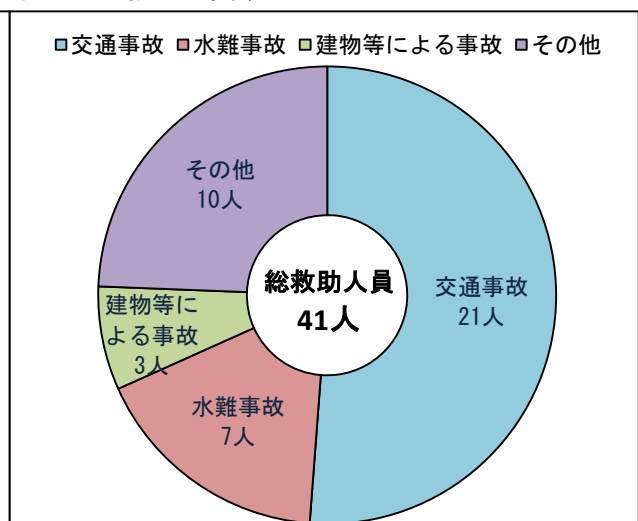
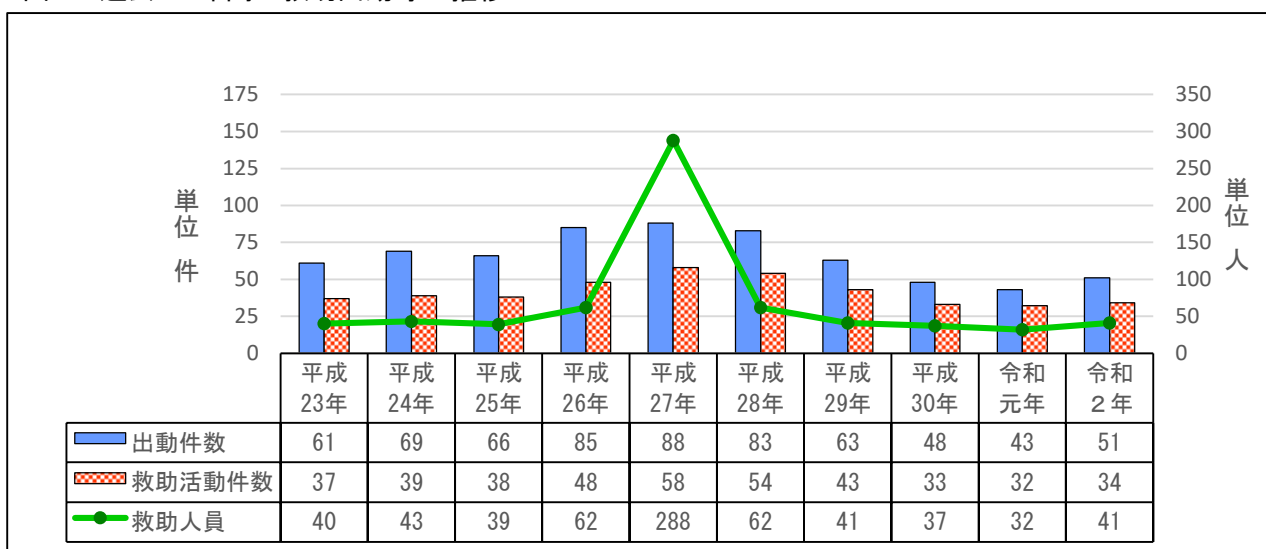


図2 過去10年間の救助出動等の推移



2 救助人員の傷病程度

救助事案で発生した傷病者の傷病程度は、死亡8人(前年比1人増)、重症3人(前年比同)、中等症16人(前年比7人増)、軽症8人(前年比2人増)、その他6人(前年比1人減)となっています。

(表3)

表3 救助人員傷病程度前年比較(単位:人)

程度年	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
令和2年	8	3	16	8	6	41
令和元年	7	3	9	6	7	32
比較	1	0	7	2	-1	9

3 救助事案発生場所

発生場所については、その他の道路が17件、次いで、その他の屋外が13件となっています。

(図3)

図3 発生場所別出動件数

